

イエスのことば 第3回

『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。(ルカ 4:4)

『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えなさい』と書いてある。(ルカ 4:8)

『あなたの神である主を試みてはならない』と言われている。(ルカ 4:12)

□文脈の確認

1. メシアはユダヤ人の王として来る (マタ 2:2)。そしてメシアの王国では、ユダヤ人のみならず、全世界を治める。
2. イエスをその王であると神が認めたことを確認する記事が3つある。第一にイエスがヨルダン川で先駆者ヨハネから洗礼を受けたときに、聖霊なる神が鳩の姿で現れ、父なる神の声が天から響いたこと、第二にイエスが荒野でサタンの誘惑を受けてこれを退けたこと、第三に先駆者ヨハネがイエスをメシアであると証言したこと、この3つである。
3. 本日の「イエスのことば」は、イエスが王であると認められた第二の出来事、イエスが荒野でサタンの誘惑を受けたときの記事の中に記されたことばである。

□アウトライン

- A) イエスの受洗と荒野での誘惑との関係
 1. イエスの受洗の6つの目的
 2. 律法の義をすべて完全に行うという宣言との関係
 3. イスラエル民族と一体化するという表明との関係
- B) 荒野での誘惑は、神が定めた課程であった
 1. 聖霊が主体的に関与しておられる
 2. 悪魔、試みる者、サタン
 3. イエスのサタンに対する態度
 4. 神の目的
 5. サタンの目的
- C) 荒野での誘惑
 1. 状況設定 (マルコ 1:12~13、ルカ 4:1~2、マタイ 4:1~2)
 2. 空腹を覚えた→第一の誘惑 申命記 8:3 の引用
 3. 国々を見せられた→第二の誘惑 申命記 6:13~14 の引用
 4. 神殿の頂に立たせられた→第三の誘惑 申命記 6:16 の引用
- D) 申命記を引用した意味→メシアとイスラエル民族との関係
 1. 申命記 8:2~5
 2. イエスはイスラエル民族の代表

E) 3つの誘惑の意味→メシアとすべての人との関係

1. すべての点において私たちと同じように試みに会われた（ヘブル4:15）
2. 試みの3つの領域（Iヨハネ2:16）
3. 荒野での誘惑は3つの領域に当てはまる

F) まとめ

1. 荒野での3つの誘惑と神との関係
2. 誘惑に抵抗する正当な方法

□A) イエスの受洗と荒野での誘惑との関係

1. イエスの受洗の6つの目的

- (1) 「すべての義を完全に満たす」（マタ3:15）＝モーセの律法を完全に守る＝メシアの資格。イエスは、メシアとしての資格を満たす者であることを宣言
- (2) ヨハネから洗礼を受ける＝ヨハネの教えに賛同する、旧約聖書全体に一体化する、ヨハネと同じ「神の国」の福音を伝える
- (3) イスラエル民族の罪を告白して洗礼を受ける＝イスラエル民族と一体化する。さらにイエスの場合は、民族のひとりにとどまらず、イスラエル民族の王である。
 - 受洗のあとには、王であることについて神からの認証を受けた。「これは、わたしの愛する子」（マタイ3:17）・・・旧約聖書では「神の子」は、イスラエル民族を指すことがある（出4:22～23、ホセア11:1）。メシアを「神の子」というとき（マタイ2:15、4:3、6）、それは、イスラエル民族の王であることを意味する
- (4) 当時の信者たち（レムナント）と一体化する
- (5) 罪人と一体化する（IIコリ5:21）
- (6) 聖霊による特別な油注ぎを受けるため（使徒10:38）

2. 律法の義をすべて完全に行う、メシアとしての資格との関係

- (1) イエスの義は完全かどうか、テストを受ける。
- (2) 荒野での誘惑は、神の目的からいえば、イエスの無罪性を証明する。サタンの目的からいえば、イエスに罪を犯させる。

3. イスラエル民族と一体化し、イスラエル民族の王であるという表明との関係

- (1) 「神の子である」と天から、イスラエル民族の王であることの認証を受けた。それにふさわしい者かどうか、テストを受ける。
- (2) イスラエル民族は、荒野で40年間テストを受けて、失敗した。イエスはイスラエル民族全体を代表して、荒野で40日間試みを受ける。

□B) 荒野での誘惑は、神が定めた課程であった

1. 聖霊が主体的に関与しておられる

- (1) マタイ 4:1 「さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた」・・・下線部の直訳は「御霊によって」
- (2) マルコ 1:12 「そしてすぐ、御霊はイエスを荒野へ追いやられた」
- (3) ルカ 4:1 「さて、聖霊に満ちたイエスは、ヨルダンから帰られた。そして御霊に導かれて荒野におり」・・・下線部の直訳は「御霊の中で」

2. 悪魔、試みる者、サタン

- (1) 悪魔 : ディアボロス 訴える者
- (2) 試みる者 : ペイラゾー 誘惑する者
- (3) サタン : サタナス ← サウタン 敵対者
- (4) サタンに対して取るべき態度・・・ユダ 9 「御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて、悪魔と論じ、言い争ったとき、あえて相手をののしり、さばくことはせず、『主があなたを戒めてくださるように』と言いました。」

3. イエスのサタンに対する態度

- (1) サタンをなじることはしなかった
- (2) サタンに対して、彼の名（悪魔、試みる者、サタン）を呼んで、サタンの追い出しをするようなことはなかった。
- (3) サタンを「縛る」こともしなかった。・・・参考＝サタンを縛るのは、大患難期が終わったあと、メシアの王国が始まる前に起きる。執行するのは、天使である。その天使は、大きな鎖を手を持って天から下って来て、サタンを捕らえ、その鎖でサタンを縛る（黙 20:1～2）
- (4) 「引き下され、サタン」（マタイ 4:10） 引き下されと訳されている原語には、なじったり、ののしったりする意図はない。「離れなさい」の意味である（参考 ヤコブ 4:6）

4. 神の目的

- (1) サタンにメシアを誘惑することを許し、メシアに罪がないことを証明するため
- (2) さらに言うと、イエスが罪を犯すことができないレベルにまで到達していることを証明するため
- (3) 40 日間の断食をさせたのは、イエスの身体的条件を極限にまで弱くし、イエスがサタンの提案を受け入れてしまいやすい状態に、あえてするため。

5. サタンの目的

- (1) 誘惑をする中で、メシアに罪を犯させる。
- (2) メシアを十字架から遠ざける。そのためには、メシアがゴールとしているところに、十字架を経ないで行くコースを提案する。

- 贖いの死となるのは、過越の祭りの時に木にかけられて死ぬことが条件

□C) 荒野での誘惑

1. 状況設定 (マルコ 1:12~13、ルカ 4:1~2、マタイ 4:1~2)
 - (1) 御霊がイエスを荒野へ迫いやった。御霊に導かれて荒野へ。
 - (2) イエスは 40 日間、荒野にいた。その間、御霊の中であって導かれていた。
 - (3) イエスは荒野にいた 40 日間、サタンの誘惑を受けた。
 - (4) イエスは、野の獣とともにいた。
 - (5) 御使いたちがイエスに仕えていた。
 - (6) イエスは 40 日間、悪魔の試みに会った。その間、何も食べなかった。40 日 40 夜、断食した。
 - (7) その時が終わると、空腹を覚えた (マタイ 4:2)。
2. 空腹を覚えた→第一の誘惑 申命記 8:3 の引用
 - (1) マタイ 4:3 「試みる者が近づいて来た」
 - (2) ルカ 4:3 悪魔 「あなたが、神の子なら、この石に、パンになれと言いつけなさい。」
 - (3) ルカ 4:4 イエス 「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある。」
 - (4) 申 8:3 の引用
3. 国々を見せられた→第二の誘惑 申命記 6:13~14 の引用
 - (1) マタイ 4:8 「非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて」
 - (2) ルカ 4:6~7 悪魔 「この、国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。それは私に任されているので、私がこれと思う人に差し上げるのです。ですから、もしあなたが私を拝むなら、すべてをあなたのものとしましょう。」
 - (3) ルカ 4:8 イエス 「『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えなさい』と書いてある。」
 - (4) 申 6:13、14 の引用
4. 神殿の頂に立たせられた→第三の誘惑 申命記 6:16 の引用
 - (1) ルカ 4:9 「悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の頂に立たせて
 - (2) ルカ 4:9~11 悪魔 「あなたが神の子なら、ここから飛び降りなさい。『神は、御使いたちに命じてあなたを守らせる』とも、『あなたの足が石に打ち当たることのないように、彼らの手で、あなたをささえられる』とも書いてあるからです。」
 - (3) ルカ 4:12 イエス 「『あなたの神である主を試みてはならない』と言われている。」
 - (4) 申 6:16 の引用
 - (5) ルカ 4:13 「誘惑の手を尽くしたあとで、悪魔はしばらくの間イエスから離れた」

□D) 申命記を引用した意味→メシアとイスラエル民族との関係

1. 申命記 8:2~5 「あなたの神、主は、この 40年の間、荒野で・・・あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたが命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、・・・」
 - (1) 40年の間、荒野で、あなたを試み、飢えさせて
 - (2) イザヤ 63:7~14、荒野において聖霊がイスラエル民族と共におられた
2. イエスはイスラエル民族の代表
 - (1) 神の子と呼ばれる
 - (2) 荒野で試みを受ける
 - (3) 40 という数字
 - (4) 御霊が共におられる
 - (5) 申命記からの引用・・・申命記は、神とイスラエル民族との契約の書である。その内容は、出エジプト記・レビ記・民数記の中に記された律法を単に繰り返したのではなく、古代の契約の様式に置いたものである。イエスが申命記を引用したのは、これが神とイスラエル民族との契約だからである。
 - (6) イスラエル民族は、集団として神の子である。この神の子は、荒野での試みにおいて失敗した。イエスは、個人として神の子であり、イスラエル民族の代表として、荒野での試みにおいて合格した。

□E) 3つの誘惑の意味→メシアとすべての人との関係

1. 「すべての点で、私たちと同じように、試みに会われた」(ヘブル4:15)・・・これは、荒野での誘惑を指す。「すべての点」とは、人が誘惑を受ける領域(3つ)すべて。
2. 試みの3つの領域(Ⅰヨハネ2:16)
 - (1) 肉の欲
 - (2) 目の欲
 - (3) 暮らし向きの自慢
3. 荒野での誘惑は3つの領域に当てはまる
 - (1) 第一の誘惑「石をパンに変える」・・・40日間の断食のあとで、イエスは空腹であった。人が空腹のときに何かを食べるということは神のみこころに適うことである。しかし、もしイエスが神から与えられたメシアとしての力を用いて、自分自身が食べる物を手に入れるとしたら、それは神のみこころに適うのか? 答えは、否である。イエスが、通常 of 自然なルートで食べ物を得て、それを食することが、神のみこころに適うことである。第一の誘惑は、肉の欲の領域におけるテスト。
 - (2) 第二の誘惑「国々の支配権を与えよう」・・・サタンは「この世の君」である。この提案をする権限は確かにあった。しかも、メシアが世界を支配するというのは、メシアが目指すゴールである。十字架を経ずして簡単にゴールに到達できるという誘いである。その条件は、サタンを拜むだけ。イエスは自分のものになるであろう力と富を目の前にしていた。これは、目の欲の領域におけるテスト。
 - (3) 第三の誘惑「神殿の頂から飛び降りて見せよ」・・・これは神の子、メシアであることの証明を迫るものである。もしこのときイエスが飛び降りるなら、イエスが定めの時より先に死ぬことはあり得ないので、詩篇91:11~12の約束が適用されるはずである。天使たちがイエスを助けに来て、イエスの体を支え、静かにそっと、地面に降り立たせるであろう。このとき、神殿に来ている大勢の人々はその光景をまざまざと見れば、群衆は口々にイエスをメシアであると歓呼の声で迎えるであろう。この奇跡はまさにイエスが神の子であることを証明するものとなるという誘いである。恥辱にまみれる十字架上の死よりも、ずっと誇り高い証明をせよという誘いである。この誘惑は、暮らし向きの(人生の)自慢(プライド)に関係する領域でのテスト。

□F) まとめ

1. 荒野での3つの誘惑と神との関係

- (1) 第一の誘惑「石をパンに変える」・・・神のみことろとの関係における誘惑
- (2) 第二の誘惑「サタンを拜むだけで」・・・神に従うかどうか、神のプログラムに従うか
- (3) 第三の誘惑「飛び降りて見せよ」・・・神に抛り頼むかどうか、それも正しくより頼むか。誤った抛り頼み方とは、神を試みることである。神の約束のとおりになるかどうか、神をテストすることである。→信者は神の約束を決してテストしてはならない。単純に信じなければならない。神は、神が良しとする時に、神の約束を成就される。

2. サタンの誘惑に抵抗する正当な方法

- (1) イエスは、3回ともサタンに抵抗するために、聖書を用いた。それも、単に、的確な箇所を引用しただけ。これは、私たちがサタンに抵抗するときも同じである
- (2) サタンに対して、してはならない3つのこと
 - ① サタンをののしる、なじる。このようなことはしてはならない。
 - ② サタンの名を呼ぶ。【補足：これはカルト的教会において、集会のたびにサタンを名指して呼んで、「サタンよ、出て行け」と連呼するやり方を指していると思われる】
 - ③ サタンを縛る。【補足：これもカルト的教会において、しばしば行われる祈りである】 その時期と執行者（天使）は決まっている。教会や信者が行うことではない。
- (3) サタンに対する対応3原則
 - ① サタンは、信者の罪を指摘して神の前に訴える者である。→ Iヨハネ 1:9、気づいた罪をすみやかに神に祈って告白し、すべての悪から清めていただくこと。
 - ② サタンは、信者に罪を犯させようとして誘惑し、試みる者である。→聖書を用いて抵抗する。それも、単に、的確な箇所を引用するだけ。聖書の学びは、霊的な戦いのためである。
 - ③ サタンは、信者に不安や不信を起こさせ、神への信頼を壊そうとする、敵対者（サタン）である。→ ヘブル 4:15~16 7:24~25 信者は祈りを通して、大胆に神の御座に近づくよう勧められている。そこには私たちの大祭司であるイエスがおられ、私たちのためにとりなしておられる。イエスは、地上の公生涯において預言者、昇天後の今は大祭司、そしてやがて再び来られて王の王となられるお方である。